

平成 24 年度第 3 回博物館懇談会議事録

日時：平成 25 年 2 月 13 日（水）17 時～18 時 30 分

場所：野田市市民会館 松竹梅の間

出席者：懇談会委員・生田武士、宇佐見節子、沼野秀樹、茂田井宏、米川幸克。郷土博物館長・関根一男、同学芸員田尻美和子、柏女弘道、佐藤正三郎、大貫洋介（書記）。野田文化広場事務局長・金山喜昭（アドバイザー）。

1. 第 2 回懇談会以降の事業について

●市民の文化活動報告展「読んでみました 野田の古文書」展示見学・説明

佐藤学芸員より博物館展示室で企画展の解説を行った（議事録省略）。その後市民会館松竹梅の間に会場を移し、意見交換を行った。

●意見交換

委員：野田古文書仲間による古文書調査や展示制作のプロセスを展示したことはオリジナルティがあって素晴らしい。入門したい人にとって分かりやすい。ただ、こうした活動を 50 歳以下の若い人たちにどのように引き継ぐかが課題であろう。

委員：若い方は仕事などがあり忙しい。古文書に興味があっても来られないという人も多いのでは。

委員：学校の先生に子どもたちを連れてきてもらって、古文書や崩し字について教えてもらえるといい。来館者の年齢がどうしても偏ってしまう。

佐藤：子供向けのイベントをやることは、展示を計画する中で古文書仲間からアイデアとして出たが、実現に至らなかった。

委員：子供たちに古文書に触ってもらうことなどができるとよかった。

委員：以前の懇談会で学校利用が話題になったが、その後学校と話をして、利用についてかなり具体的なところまで話がいった。ただし、距離やバスの確保などがネックになっている。学芸員が学校に出向くことはできないか。

委員：古文書仲間のメンバーが出前授業を行うのもよかったのでは。少し分野は違うが、環境のコンサルタントなどは小中学校に行って授業を行っている。

田尻：今冬は昔の暮らしの学習での学校見学が例年よりも多く、出前授業も 1 校行った。小学校三年生で昔の暮らしを学ぶカリキュラムがあり、実際に市民会館の和室に生活道具などの資料を出している。こうした資料はセット化して対応している。また、古文書仲間の次にできた自主研究グループ「なつかしの道具探究会」では、古い生活道具を調査している。この冬の小学校の見学の際には、探究会のメンバーにサポートをしてもらい、道具の使い方や当時の様子を語ってもらった。

委員：そうした体制が整っていれば、こちらも学校に対して話を進めやすい。

委員：古文書は扱いが難しいのでは。

柏女：関連事業では、古文書の扱い方について学ぶだけでなく、参加者に古文書を実際に触ることができる寺子屋講座を実施した。

委員：若い方の参加はあったのか。

柏女：若い方の参加は少なかった。古文書に限らず当館の利用者は高齢者が中心となっている。

金山：こうした機会に新陳代謝を進めていかないと会の活動が停滞してしまう。今回の展示で古文書仲間に新しく入会したいという希望が多く寄せられている。

佐藤：新規利用者をいかに定着させていくかが今後の課題。

委員：野田地区だけでなく、関宿、梅郷、川間方面の人にも会の活動に積極的に参加してもらえるとよいが、そうした方面から参加している方はいるのか。

佐藤：現在、旧関宿地区から参加している人はいない。岩名、桜台方面から参加している人はいる。

田尻：関宿方面で古文書に興味のある方は、関宿城博物館で開講している古文書講座に参加しているのでは。

委員：互いを知り、住み分けをしていくことが重要。県立博物館と郷土博物館で利用者を奪い合う事態は避けた方がよい。

佐藤：他館の古文書講座は大半が古文書のコピーを読むのが中心なのに対し、当館では古文書の現物を扱い、読解した古文書の情報発信を行っている。

委員：そうした点で、この博物館の古文書仲間の活動はオリジナリティーがある。

委員：小学校が2校あったのは旧福田村だけ。教育に力を入れてきた歴史がある。また、2月に郷土史家に依頼して講演会を開催したところ、船橋随庵などの偉人について、新たに学ぶことができた。郷土博物館もこうした地元の特色を生かした活動を行ってほしい。地元の歴史を知らない人も多い。そうした点では、今回の展示はすばらしいと思う。

金山：博物館の展示は専門家目線での展示が多いが、今回の展示は市民目線で展示を行っているので、非常に分かりやすい。こうした展示は前例がない。

委員：文書館の古文書展示は字ばかりで分かりにくい。

佐藤：見学者から寄せられた感想で「難しい」「分かりにくい」という意見は聞かれない。

金山：学校では、古文書や地域の歴史についてどのように扱っているのか。

委員：6年生の社会科の資料集に掲載されている程度。最初から読めない、分からないという先入観があり、今回の展示は子どもには難しい。ただ、文章を読むのは無理でも、単語ごとに、現代語と対比させながら解説するような方法であれば、子どもも興味をもつのでは。

金山：蕎麦屋の看板に使われているくずし字の紹介などは非常に分かりやすい。

佐藤：挨拶が音声で流れるコーナーでは、おおよその意味や内容を理解している子どもも多かった。音声で聞くと受け入れやすいのかもしれない。

金山：古文書仲間が学校に出向いて授業を行う可能性についてはどうお考えですか。

委員：社会や理科など、様々な分野で出前授業を行っているが、最近はキャリア教育の一貫として、市内の様々な職業の方をお招きしてお話をしてもらっている。博物館で行う出前授業についても、十分可能性はある。ただし、そうした取り組みを行っているということを学校側に宣伝しないと、知らないまま終わってしまう可能性が高い。

金山：宣伝については、個々に行うのではなく、教育委員会で出前授業のメニューを作り、学校側で回覧するとよいのでは。

委員：そうしたものがあると、非常にありがたい。

金山：どこが取りまとめるか。学校教育課あたりで取りまとめは可能か。

委員：ホームページで宣伝してみてもいい。

委員：現場の先生は混乱しないか。

委員：むしろ内容をまとめたものがあると授業を計画しやすい。

佐藤：現在、昔の生活道具はすぐに対応できるようになっているが、それ以外の歴史等については、準備が整っていない。学校向けのコンテンツ作りが必要。それと、中学生になると地域の歴史を学ぶ単元がなくなるので、来館することがほとんど無くなる。

金山：中学生は地元から浮いてしまう部分がある。受験に追われてしまう。

佐藤：コンテンツについては、一般論的なものと、より地域に特化したものとはどちらがよいか。

委員：昔の教科書などは、一般的なものでも子どもには十分効果がある。

田尻：自分の名前や学校名など、身近な単語をくずし字にして紹介すると、子どもは興味を示すのでは。

委員：それはよい。そういったことをきっかけに関心をもってもらえるとよい。

2. 平成 25 年度事業計画について

柏女学芸員より平成 25 年度の展示及びその他の事業について下記の説明を行った。

・現在、展示室 1 階は年 4 回展示を入れ替えている。

・4 月 6 日（土）～7 月 8 日（月）企画展「野田に生きた人々 その生活と文化 2013」

小学 6 年生の歴史の授業に対応するように毎年春に行っている。展示室の半分を土器や石器などの考古遺物コーナーとし、もう半分は市民からの寄贈や古書店などからの購入によって収集した新収蔵資料の一部を展示する。

・7 月 20 日（土）～10 月 21 日（月）企画展・市民の文化活動報告展「野田の自然」（仮称）

野田古文書仲間の展示と同じ、市民の文化活動報告展。野田自然保護連合会（通称なす連合）の活動報告を行う。昆虫標本や植物や鳥の写真など自然系の展示になる。

・11 月 2 日（土）～1 月下旬 特別展「絵馬」（仮称）

・2 月下旬～3 月下旬企画展・市民コレクション展「刀剣」（仮称）

野田市美術刀剣会による刀剣の展示を行う。市民コレクション展として開催するため、単

に名品を展示するだけでなく、コレクターの紹介も行う。

(展示以外のその他の事業については一覧表を配布。)

●平成 25 年度事業計画に関する意見交換

委員：なナ連合の加盟団体の中では野鳥同好会が最も歴史が古く、会員数も多い。野鳥同好会としてだけでも展示が出来てしまうぐらい歴史がある。

田尻：最初に展示の話をいただいたのは、なナ連合としてであった。

委員：野田市の江川地区で飼育を始めているコウノトリは扱わないのか。

柏女：なナ連合が直接的に関わっているわけではないので、展示では扱わない。

●その他の事業に関する意見交換

委員：たまには著名なテーマを取り上げ、博物館の知名度を上げるのもよい。例えば、ますむらひろしや池沢さとし等、野田出身の漫画家をテーマにすれば人を呼べる。堅いテーマと柔らかいテーマとのバランスをとることが大事。

田尻：世間から注目を集めるビックイベントとして、来年度は 10 月に将棋の竜王戦の第 1 局を市民会館で行う。

委員：テレビ中継は行うのか。

田尻：以前開催した名人戦と同じであれば、対局中継や博物館展示室での大盤解説も行う。

委員：博物館がどこにあるのかわからないという声も多い。知名度を上げていく努力もしなければ。

3. 平成 24 年度を振り返って

24 年度の博物館活動全般について意見交換を行った。

委員：地元の高中生や大学生と積極的に交流し、勉強や進路などを学芸員がアドバイスできるようになるとよい。将来への可能性が広がるだけでなく、隠れた人材を見つけるよい機会となる。

柏女：高校生との交流については、西武台千葉高校などで学芸員が講演を行ったこともある。

委員：子どもが気軽に相談に立ち寄れるようになるとよい。

田尻：気軽に立ち寄るとい点では、隣の野田鎌田学園とも交流がある。校長先生などが授業の合間に生徒たちを連れて、当館に立ち寄ってくれる。

委員：noda-1 グランプリのように地元の高中生が参加できるイベントもできるとよい。地元のイベントに参加することで新たなやりがいや意欲を見出す子もいる。

委員：博物館実習はどうか。

田尻：地元や近隣から参加する大学生が多い。

佐藤：将来学芸員への就職を希望する者など、インフォーマルな関係であれば学生との付き合いがある。

田尻：現在、学芸員補助員として市内在住の大学生（現 2 年生）を雇用している。将来学

芸員へ就職を希望しており将来有望。

委員：博物館活動全体で言えば、アピール不足の感が否めず非常に勿体無い。例えば、今回の展示でいうとチラシから展示の内容がイメージしにくい。「初心者が挑んだ」というのが今回の展示の売りなのであれば、そこにもっと重点を置いてアピールできればよかった。

佐藤：タイトルについては、「野田の古文書」だけだと堅くなってしまうので、できるだけとっつきやすいタイトルを意識した。

委員：ポスターの場合、字のバランスを1つ変えるだけで効果が変わる部分も多い。

佐藤：コンセプトと資料を考慮すると、付けられるタイトルは非常に限られる。

委員：第三者から意見を聞く機会はあるのか。

佐藤：今回の展示では、古文書仲間が主体で行う展示のため、古文書仲間の意見をかなり取り上げた。

田尻：古文書仲間の自主性を尊重して、会で決定したことを館側でくつがえさないようにした。

佐藤：文化活動報告展以外であれば、展示の主体は博物館となるため、改善の余地も多い。

委員：私も様々な催しに携わることが多いが、タイトルは本当に難しい部分だと思う。

委員：展示の全体像が見えない企画の段階でタイトルを決定しなければならないことは、確かに難しい。

4. その他

●博物館自己評価について

博物館自己評価の2011年度の数値について田尻学芸員より以下の説明を行い、意見交換を行った。

- ・自己評価は博物館のPDCAサイクルのためのものであり、他館でも同じような取り組みが始まっており、当館でも評価表の作成を行っている。2011年度の数値は近日中に発行される『野田市郷土博物館年報・紀要2011』に掲載される。

- ・ミッションに則った評価項目を立てて、それらを数値化し、現状をチェックしている。

- ・例えば資料購入については、チェックリストによって予算を有効活用できていないことが判明し、次年度に大幅に改善することができた。

- ・入館者数も年々増加しているが、その内訳をみると半分がリピーターであることが分かる。市民会館の貸部屋利用団体数も増加している。

●評価表に関する意見交換

委員：市民会館貸部屋利用の金額は年間でどのくらいになるのか。

田尻：約80万円。市のイベントなど、利用料免除での利用も多い。

田尻：モニタリング調査の結果を見ると、特に来館者への職員の対応率と対応への満足度が高いことが分かる。また、他の団体との連携も増えていることが集計から分かる。例えば、2011年度に行われた煎餅展では、市内の煎餅店と連携し、資料の提供や煎餅セットの

販売を実施することができた。

田尻：市職員の来館状況も調べている。他館の例をみると、指定管理を受けた館が行政から放置され、市の職員が全く来館しないことも多い。市職員との日々のコミュニケーションは意思疎通の面で大事である。

委員：こうした数字の裏付けがあると、何かあった時に心強い。

関根：寺子屋講座はどうか。

田尻：平均参加者数は増加している。

田尻：こうした評価は作るのに時間はかかるが、館の現状や問題点を洗い出すことは重要である。

委員：私もこの懇談会以外でもなるべく博物館に顔を出すようにしたい。

委員：私の知っている他の博物館では、理念やミッションがわからない所も多いが、ここははっきりしており、よいと思う。

佐藤：ミッションが明確だと、事業企画で悩んだ時に立ち返って考えることができる。

●博物館懇談会委員の再任について

平成 25 年度博物館懇談会について、委員 5 名に再任の依頼をし、了承された。

・平成 25 年度第 1 回博物館懇談会は 6 月 5 日（水）を第一候補日とする。第二候補は 6 月 12 日（水）。時間は 17 時-18 時半。